

公園を活用したプレーパークの実施について

1 今年度のモデル実施について

令和5年夏のこども会議での声を受け、令和6年10月から12月にかけて、「あかし1DAYプレーパーク」を特性の異なる市内4か所の公園で実施しました。各プレーパークでは、公園の自然特性などをいかしながら、令和6年夏のこども会議で出された子どもたちのアイデアを実現した遊びが展開されました。4日間でのべ約3500人が参加し、様々な遊びを楽しむ親子らでにぎわいました。

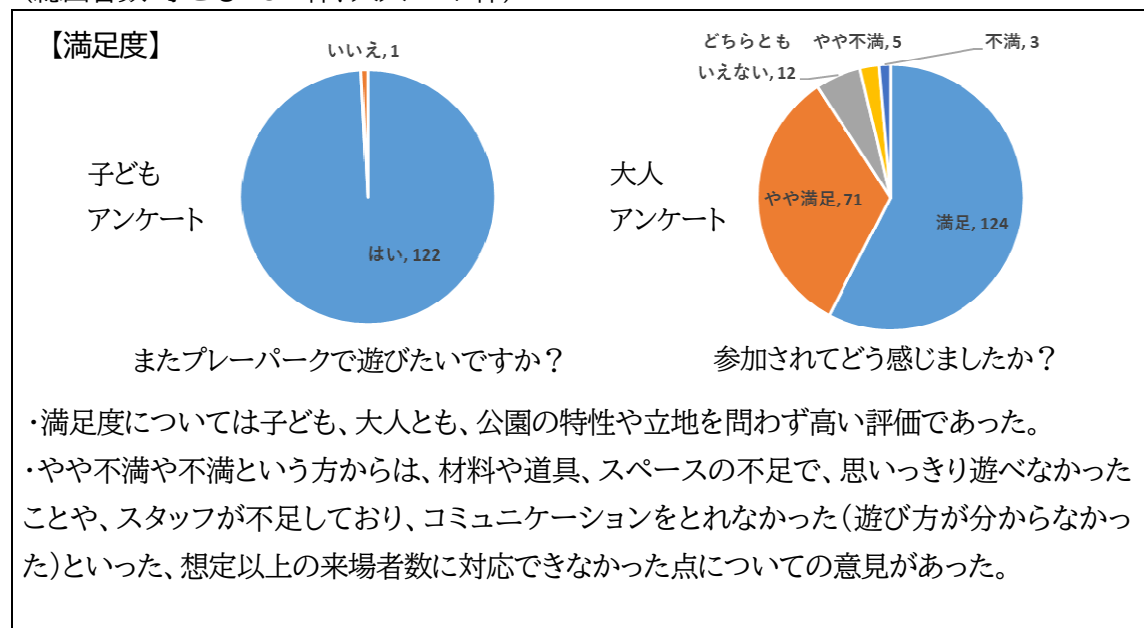
令和6年度の実施概要

	大蔵海岸公園	明石公園	石ヶ谷公園	上ヶ池公園
実施日	10月12日(土)	11月9日(土)	11月30日(土)	12月1日(日)
実施時間	10時～15時			
推定参加者数	650名	800名	1000名	1000名
主な遊び	生き物観察、つり竿づくり、つり、サンドアート、秘密基地づくり他	虫とり・生き物観察、竹遊び、秘密基地づくり、焼き芋、ロープ遊具他	木工、リースづくり、秘密基地づくり、シャボン玉、焼き芋、ロープ遊具他	段ボール工作、紙芝居、ピタゴラ、焼き芋、ハンモック、お絵かき他

2 アンケート結果(概要)について

今後の取組方針を検討するため、遊んだ感想をきくための子ども用アンケートと、交通手段や満足度、今後に望むことなどをきくための大人用のアンケートを実施しました。

(総回答数:子ども132件、大人217件)



【子どもアンケート概要】

- ・9割を超える子どもたちがおもいっきり遊べたと回答。
- ・「楽しかった遊び」や「楽しかったところ」の問いにも、様々な遊びがあがっており、子どもたちが自分たちで選んで自由に遊べた様子がうかがえた。
- ・遊んだあとの気持ち(自由記載)としては、楽しかった遊びの絵や「また来たい」「うれしかった」という言葉が多く見られた。

【大人アンケート概要】

- ・(参加動機) 子どもが喜びそうだから、子どもが行きたいと言ったから、申込不要で気軽に参加できるからなど。
- ・(交通手段) 大蔵海岸公園と石ヶ谷公園には自動車、明石公園には電車、上ヶ池公園には徒歩や自転車が一番多かった。
- ・(印象に残った子どもたちの様子) 夢中になって遊ぶ様子や自然に知らない子と一緒にあそぶ様子、新しいことにチャレンジする様子、楽しそうだったり一生懸命だったりする表情など。
- ・(今後に望むこと) 自然の中での遊び、身体を使った遊びの他、工作など普段なかなか体験させてあげられないことが出来る場を求める声が多く、開催場所としては明石公園や大蔵海岸公園のほか、明石北わんぱく広場や17号池魚住みんな公園等様々な場所の希望があった。

3 令和7年度以降の取組みについて

五感を使った遊びを通して、子どもの好奇心や想像力、生きる力を育むことができるよう、プレーパーク事業のさらなる推進をはかります。令和7年度は、今年度のモデル実施を踏まえ、3つの視点で事業を進めます。

(1) プレーパークや子どもの遊び場の重要性についての理解を広げる

今年度のモデル実施では、プレーパークの趣旨や子どもにとっての遊びの重要性についての周知や、保護者の参加への働きかけが不十分など課題が残りました。そのため、引き続き大蔵海岸公園、明石公園などで回数を増やしてプレーパークを実施しながら、市民の理解促進にも力をいれていきます。

(2) 市内にプレーパークに関わる人材を増やす

子どもの遊びをコーディネートするプレーワーカーやサポートスタッフなど、プレーパークを今後継続するために必要な人材の育成を、プレーパークを実施しながら進めます。

(3) 地域に根付いた遊び場を市内に広げる

地域等が主体となり自主的に運営するプレーパークに対する補助金制度を創設します。